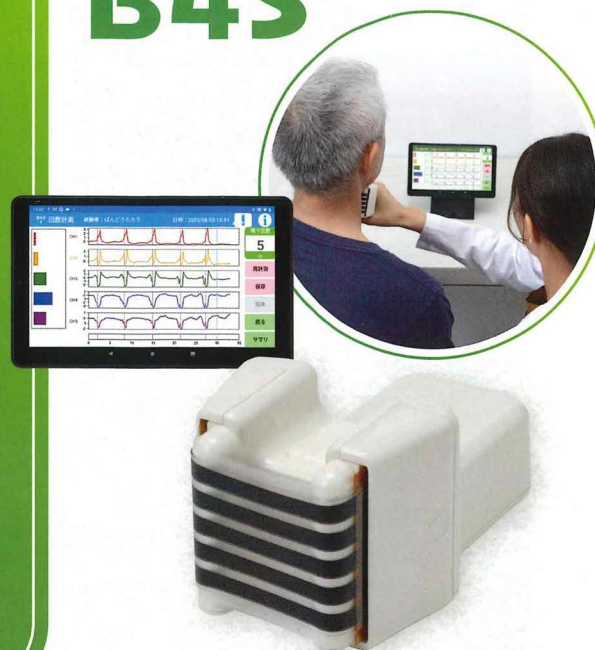


食べる力を支える

歯科医療の新たな役割

口腔機能低下症の取組みの重要性と
嚥下運動モニタ B4S™ の活用

嚥下運動モニタ
B4S™



このような先生・歯科衛生士の方に
おすすめです

- ✓ 口腔機能低下症の管理、何から始めればいい？
- ✓ 歯科衛生士の指導や摂食嚥下支援の体制を強化したい！
- ✓ 訪問診療や高齢者支援に活きる、客観的な評価方法が知りたい！

受講料

無料

LIVE配信

2026年
9月29日(火)
20:00~21:00

本セミナーで学べること

1

2026改定対応

口腔機能低下症管理の
正しい実践法

2

現場のリアル

歯科衛生士による指導と
摂食嚥下支援の実践

3

最新ツールの活用

B4S™を活用した
評価と多職種連携

講師

谷口 裕重 先生

朝日大学歯学部
摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授

朝日大学歯学部 摂食嚥下リハビリテーション学分野 主任教授。朝日大学病院 口腔管理・食支援センター長。日本老年歯科医学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会などで要職を務め、摂食嚥下・リハ栄養分野における教育・研究・臨床をリードしている。摂食嚥下リハビリテーションに関する著書・監修書も多数。



セミナー抄録

「“食べる力”を支えることが歯科の責務である」、そんな言葉を耳にする機会が増えてきました。口腔機能低下症という概念が提唱され、歯科医療の新たな役割が社会から問われ始めています。一方で、臨床現場では「口腔機能低下症をどのように導入すればよいかわからない」「検査は実施しているが、その後の管理や訓練につながらない」といった声も多く聞かれます。

口腔機能低下症は「難しそう」「面倒くさそう」というイメージが先行しがちですが、実際にはその評価法や管理は決して難しいものではありません。さらに、口腔機能管理は特別な診療ではなく、これまで歯科医療者が行ってきた義歯治療、咀嚼機能の回復、口腔衛生管理、患者指導の延長線上に存在すると我々は考えています。重要なのは、単に検査値を測定することではなく、得られた評価結果から患者の問題点を把握し、個々の状態に応じた介入へつなげることです。

その中でも、摂食嚥下機能の評価は重要なポイントになります。従来、嚥下運動は外部から確認しにくく、「本当に飲み込めているのか」「訓練効果が得られているのか」を客観的に判断することには限界がありました。そのため

近年では、嚥下機能を客観的に評価し、その結果を患者指導や継続的な機能管理へ活かすことが重要となっています。嚥下運動モニタB4S™は、その一例として喉頭挙上運動を可視化し、嚥下評価や訓練時のバイオフィードバックに活用できるツールです。評価結果を患者や多職種と共有することで、より効果的な摂食嚥下支援につながることが期待されています。

本講演では、2026年度診療報酬改定を踏まえ、口腔機能低下症管理を歯科臨床へどのように取り入れるか、また歯科衛生士が主体的に関わる口腔機能実施指導や摂食嚥下支援のポイントについて解説します。さらに、訪問歯科診療や高齢患者における摂食嚥下機能評価の考え方、そしてB4S™を活用した客観的な評価と継続的な口腔機能管理への応用について紹介します。

口腔機能管理と摂食嚥下リハビリテーションは、決して特別なものではなく、これからの歯科医療に求められる日常臨床の一部です。本講演が、参加者の皆様にとって「明日から始められる」口腔機能管理と摂食嚥下支援への第一歩となれば幸いです。

セミナーのお申し込み・ご視聴はこちら ▶

右記のQRコードよりお申し込みください。お申し込みは無料です。



セミナー視聴までの流れ

既に会員の方はここから

ユーザー登録

セミナーお申込み

視聴開始

ホワイトクロス



新規会員登録(無料)ボタンより必要項目を入力いただくと、登録完了メールが届きます。

WHITE CROSSは歯科医療従事者専用のサイトを構築しているため、ご利用には無料の会員登録が必要です。ご登録いただくと最新の歯科情報やお役立ちツールなどご自由にお使いいただけます。

右記のQRコードより、セミナーページを開きます。



ページ下部にあるお申し込みボタンをクリック!

お申し込みにはログインが必要です。

9月29日20時～、セミナーページより視聴が可能です。

ご視聴にはログインが必要です。

BANDO
Medical & Healthcare


MORITA

お問い合わせ先

WHITE CROSS 株式会社
Email: support@whitecross.co.jp